



藤本 みのる 通信

Vol 289

2018年5月8日発行

大月市議会議員



自宅 大月市猿橋町小篠 8 5 3

電話/FAX 0 5 5 4 - 5 6 - 7 2 7 2

幡野正八幡神社参詣神楽

今回の式年大祭参詣神楽には、初参加の強瀬、72年ぶりの小篠を含め9地区が集いました。朝日小沢が雄獅子の他、他の地区はすべて雌獅子ですが、一つとして同じ舞がなく歴史と伝統を感じました。

小篠では8年前に神楽保存会が復活し、私も頭舞として参加していますが、神楽堂を担ぐ一行と晴れがましい気持ちで、幡野の東方山頂に鎮座する正八幡神社をめざしました。順番を待つ間に、「たっちゃんが生きてたら喜んだらうな」と声をかけてもらいました。神楽保存会の復活を誰よりも喜んだ亡き父のことは常に胸にあります。氏神への敬意とともに、笑顔で何事にも熱心に取り組むことで報いたいと思います。式年大祭は伝統との一体感をえた特別な機会となりました。

幡野正八幡神社の歴史

雄略・清寧天皇(400年代)の遺臣がこの地に落ちのび、御旗をまつて以来1600有余年の歴史を有する神社であると伝えられている。鎌倉時代に焼失から再建、この功により時の鎌倉幕府から正八幡の称号を与えられた。神社庁によれば、全国4万社の八幡神社にあって、正八幡の称号を有する神社は極めて少ない。

12年ごと式年大祭の由来

江戸時代末期(1851年)、社殿を再建したが、完成までに12年かかったといわれている。この神社を氏神とする猿橋町幡野、小篠、津成、太田、久保、小倉、小沢、朝日小沢の8地区の住民は、乏しい生活費の中から神社建設費をねん出したのだが、この期間の住民の苦労を忘れないため、12年ごとの戌年(いぬ)に祭典を行うという式年祭を決定し、以来今日までこの取り決めは守られている。式年大祭には8地区すべての神楽獅子が集い、それぞれ獅子舞を演ずる参詣神楽が行われている。

『神楽と獅子舞考』H20、志村幸男・小林秀敏著より

【藤本みのる活動日誌】

- 4月26日(木) 中央病院第2回評価委員会傍聴
- 4月29～30日 小篠区水路清掃、土地改良区ポンプ土砂作業
- 5月 3日(木) 憲法カフェ・ぐんない(市民と大学人をつなぐ会・大月市9条の会)
- 5月 4日(金) 幡野正八幡神社式年大祭(参詣神楽)
- 5月 5日(土) 稲の育苗作業(自家用)
- 5月 6日(日) ジャガイモ畑の囲い補強(前夜囲いを突破されイノシシ食害)